

歳出総額 3.0%増 201 億 1,469 万円

平成26年度

決算 報告

平成 26 年度の市の一般会計および特別会計の決算を報告します。また、同年度に行われた事業の中から主なものを紹介します。

一般会計

歳入総額	210 億 4,849 万円
歳出総額	201 億 1,469 万円

財政課

☎995-1801



EV、PHV 充電設備



市道 1-23 号線 (平松深良線)

自主財源 (68.9%)

依存財源 (31.1%)

市税 (54.9%)	115 億 6,192 万円
市民の皆さんや会社などの法人が納めた税金	
諸収入 (5.8%)	12 億 2,763 万円
延滞金、預金利子、雑入、貸付収入など	
繰入金 (3.5%)	7 億 2,831 万円
基金の繰入金など	
繰越金 (2.1%)	4 億 4,675 万円
前年度の剰余金	
その他 (2.6%)	5 億 4,465 万円
分担金と負担金、使用料と手数料、財産収入、寄附金など	
国庫支出金 (12.6%)	26 億 6,094 万円
事業を行うために国から交付される補助金など	
市債 (7.7%)	16 億 2,880 万円
事業を行うために借り入れたお金	
県支出金 (3.9%)	8 億 1,255 万円
事業を行うために県から交付される補助金など	
その他 (6.9%)	14 億 3,694 万円
地方交付税、地方消費税交付金、地方譲与税、利子割交付金など	

平成 26 年度 決算報告

歳入・歳出の概要

歳入決算額は、景気の回復による法人市民税の大幅増により市税が 14 億 6,638 万円増の 115 億 6,192 万円、国庫支出金は最終処分場（第二期）整備事業に伴う循環型社会形成推進交付金などにより 2 億 3,019 万円の増、消費税の税率変更により地方消費税交付金が 1 億 1,802 万円の増、財政調整基金取崩しの縮減などにより繰入金金が 4 億 6,076 万円の減、市債は減収補てん債の発行をしなかったことなどにより 2 億 8,890 万円の減となり、全体で前年度比 7 億 96 万円（3.4%）の増の 210 億 4,849 万円でした。

なお、平成 26 年度は普通交付税の交付団体となりました。

歳出決算額は、民生費が保育所緊急整備事業費補助金、臨時福祉給付金などにより 4 億 6,162 万円の増、衛生費が最終処分場（第二期）整備事業などにより 4 億 2,716 万円の増、諸支出金が都市施設建設基金積立金などにより 7 億 636 万円の増、総務費が法人市民

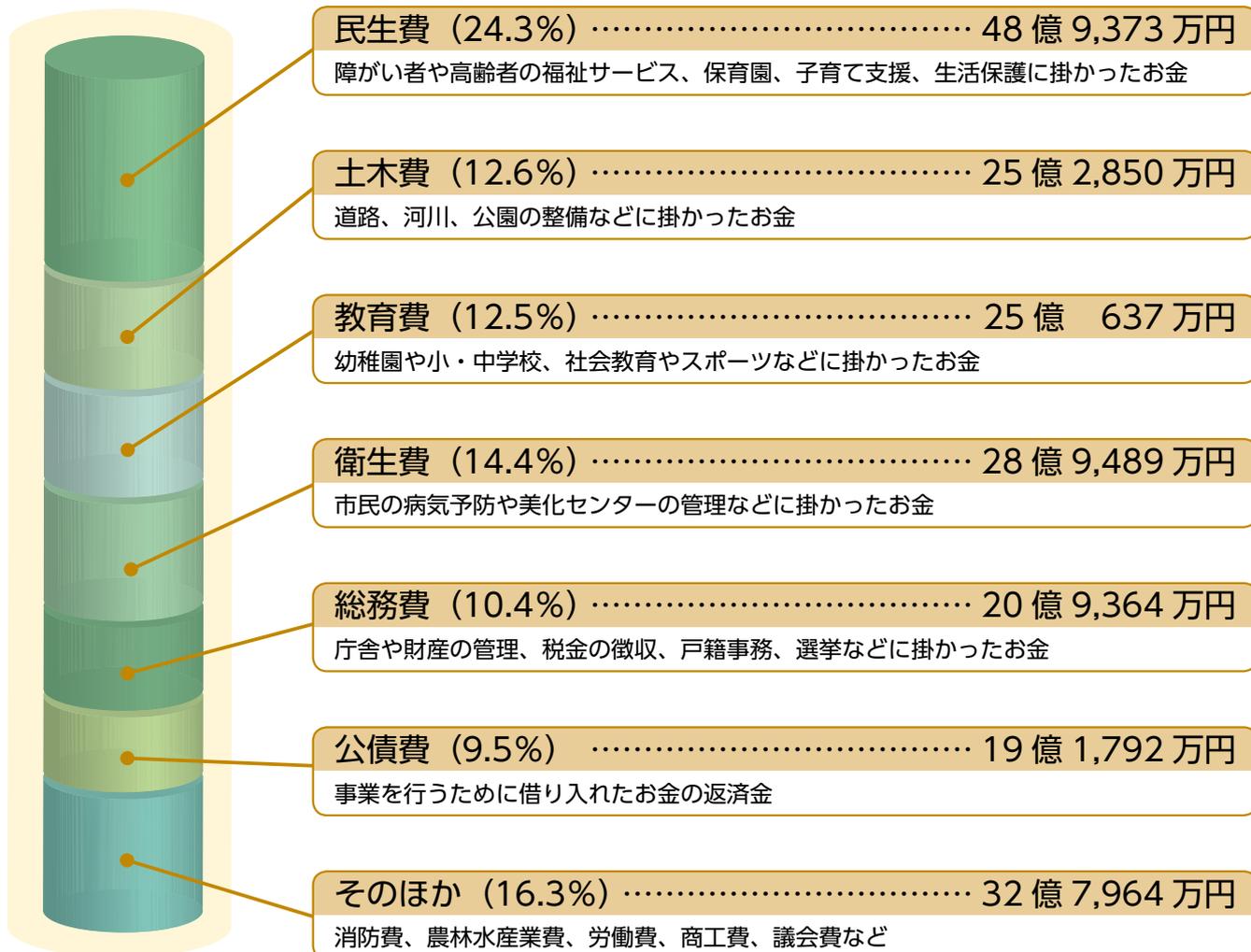
税の還付金の減などにより 4 億 5,100 万円の減、土木費が裾野駅周辺整備費などの減により 8 億 1,285 万円の減となったことなどから、前年度比 5 億 9,392 万円（3.0%）の増の 201 億 1,469 万円となりました。



「誘拐少女」試写会



須山浅間神社トイレ



総合計画 6本の柱に基づく主要事業

平成26年度

主 要
事 業



第4次市総合計画が目標とするまちの将来像「みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市」の実現を目指し、6つの柱に沿った事業を行いました。

1. だれもが将来にわたってすこやかに暮らせる健康と福祉の「すその」

事業名	事業概要
ヘルシーパーク裾野管理事業	ヘルシーパーク裾野の管理運営
成人がん検診事業	成人各種がん検診
裾野赤十字病院施設整備費補助事業	裾野赤十字病院施設整備への補助
障害者（児）介護給付事業	在宅での入浴などの介護、外出の支援や、施設での介護にかかるサービスを提供
保育園運営事業	市立保育園の運営と私立保育園の運営補助
放課後児童健全育成事業	昼間保護者がいない家庭の低学年児童を預かることで、安全で豊かな放課後生活を推進
こども医療費助成事業	保護者の負担軽減を図り、小中学生の健やかな成長に寄与するため、医療費を助成
児童手当事業	生活の安定、次代を担う児童の健全育成、資質の向上を目的として支援
乳幼児医療費助成事業	保護者の負担軽減を図り乳幼児の健やかな成長に寄与するため医療費を助成

2. 成長するよこびと地域のつながりで心の豊かさを育む「すその」

事業名	事業概要
非常勤講師派遣事業	学校教育支援講師の賃金、ふれあい教室職員賃金、外国人児童生徒相談業務
体育施設管理整備事業	市民体育館・運動公園などの体育施設の維持修繕工事を実施
教育振興基本計画策定事業	教育の中長期的な方向性を示す教育振興計画を策定

3. 市民と行政が手を携えてつくる安心と活力のある「すその」

事業名	事業概要
区運営費交付事業	自治会組織・活動の充実
地区集会所建設事業	地区コミュニティ活動の拠点となる地区集会所の整備
防災体制整備事業	地域防災体制を整備
最終処分場（第二期）整備事業	最終処分場（第二期）整備に伴う各種工事を実施
美化センター延命化事業	美化センターの設備や装置の段階的整備を実施
消防救急無線デジタル化整備事業	裾野市と三島市、長泉町で新たに消防救急デジタル無線を共同整備

4. 豊かな自然と暮らしやすさが調和した「すその」

事業名	事業概要
河川改良事業	地区要望などによる市内の準用・普通河川の整備
林業振興・林地保全事業	林業関係団体の育成と支援・森林資源の保全と管理
裾野駅西土地地区画整理事業	裾野駅西土地地区画整理事業の推進と、市の中心市街地にふさわしい地区に整備

平成 26 年度 主要事業

道路新設改良事業	市内道路の整備
平松深良線道路改良事業	都市計画道路平松深良線の整備

5. 今ある魅力と資源を再発見し、未来へつなげる「すその」

事業名	事業概要
企業立地促進事業費補助金	企業が行う事業用地取得費と設備投資の経費の一部を助成
住宅建設等促進支援事業	住宅耐震補強工事の促進や地域経済の活性化
シティプロモーション推進事業	市の知名度・高感度のアップを図るため、マスコットキャラクターやフィルムコミッションなどの事業を実施

6. 健全な行政をみんなが実感できる市民と未来に開かれた「すその」

事業名	事業概要
議会事務局運営事業	議会の意思決定や、委員会の議論を積極的に情報提供できる環境整備を検討、実施

特別会計

■国民健康保険特別会計

歳入総額	54億7,578万円
歳出総額	51億5,501万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	3億2,077万円

■後期高齢者医療事業特別会計

歳入総額	4億3,559万円
歳出総額	4億3,085万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	474万円

■十里木高原簡易水道特別会計

歳入総額	3,612万円
歳出総額	3,612万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	0円

■土地取得特別会計

歳入総額	21万円
歳出総額	21万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	0円

■介護保険特別会計

歳入総額	30億429万円
歳出総額	28億8,757万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	1億1,672万円

■墓地事業特別会計

歳入総額	5,157万円
歳出総額	4,883万円
繰り越すべき財源	
実質収支額	274万円

■下水道事業特別会計

歳入総額	9億6,318万円
歳出総額	9億5,533万円
繰り越すべき財源	785万円
実質収支額	0円

※水道事業会計は9ページに掲載しています。



都市計画税の用途状況

都市計画税の決算額は4億71万円でした。都市計画税は、総合的なまちづくりを行うため、街路整備など都市計画事業に必要な費用の一部として活用されています。

■都市計画事業

事業別	事業費	構成比	財源内訳	
			特定財源(※)	一般財源
土地区画整理費	4億5,714万円	28.9%	2億4,689万円	2億1,025万円
平松深良線街路費	1億7,068万円	10.8%	1億3,990万円	3,078万円
都市計画事業公債費	1億7,712万円	11.2%	0円	1億7,712万円
下水道事業特別会計	7億7,529万円	49.1%	3億5,311万円	4億2,218万円
合計	15億8,023万円	100%	7億3,990万円	8億4,033万円

※特定財源……国・県支出金、地方債、負担金、そのほか

財政健全化判断比率・資金不足比率公表

いずれも基準内で健全な財政運営を継続

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、平成26年度の健全化判断比率と資金不足比率を公表します。実質公債費比率と将来負担比率は、共に早期健全化基準と財政再生基準を大きく下回り、健全な財政運営を行っています。

財政課

☎995-1801

健全化判断比率とは？

分母に市の標準財政規模*の数値を用いて赤字や借金の比率を計算したものです。次の4つの指標から財政の健全度が判断され、一定の基準を超えた団体は新規の借金が制限されるなどの制約があります。

平成26年度財政健全化判断比率

指標名	数値	早期健全化基準 (黄信号)	財政再生基準 (赤信号)
1. 実質赤字比率	-(黒字)	13.18%	20%
2. 連結実質赤字比率	-(黒字)	18.18%	30%
3. 実質公債費比率	8.7%	25.0%	35%
4. 将来負担比率	1.1%	350.0%	

*市税などに基づいて計算された数値で、家庭に置き換えて表現すると給料になります。平成26年度の当市の標準財政規模は約110億円になります。

資金不足比率とは？

公営企業ごとの赤字が、事業の規模に対してどの程度あるかを示すものです。赤字は発生していないので数値はありません。

計算式：資金の不足額 ÷ 事業の規模

平成26年度資金不足比率

指標名	水道事業 会計	下水道 事業 特別会計	十里木高原 簡易水道 特別会計	経営 健全化 基準
資金不足 比率	-(黒字)	-(黒字)	-(黒字)	20%

健全財政で
うるおいすその。



財政の健全度を判断する4つの指標

1. 実質赤字比率

一般会計の収支が赤字となった場合の指標です。家庭に例えると「年間収支の赤字」が「1年間の給料」に対してどのくらいの割合であるかを示すものです。赤字は発生していないので数値はありません。

計算式：一般会計赤字額 ÷ 市の標準財政規模

2. 連結実質赤字比率

一般会計と国民健康保険などの特別会計すべての実質収支の合計が赤字である場合の指標です。赤字は発生していないので数値はありません。

計算式：全会計の赤字総額 ÷ 市の標準財政規模

3. 実質公債費比率

「1年間の内に借金返済に支出された額」の「標

準財政規模」に対する割合を表した指標です。家庭に例えると「1年間の給料」に対する「1年間の借金返済額」の割合を表したものです。

計算式：1年間の借金返済額 ÷ 市の標準財政規模

4. 将来負担比率

「特別会計、第3セクターまで含めた市の負債総額から積立金などを引いたもの」の標準財政規模に対する比率を表したものです。家庭に例えると、「1年間の給料」に対して「何年分の借金」があるかを表す指標です。この指標が350%（標準財政規模の3.5年分）を超えると早期健全化団体となります。

計算式：(負債残高総額 - 積立金等総額) ÷ 市の標準財政規模